

1 明けない夜はないから



- ① 宮城県の子どもたち 十荒井良二/絵
ことば「明けない夜はないから」歌詞
(たかはしあきら+新田新一郎+渡辺リカ)
- ② フェリシモ
- ③ 1524円
- ④ E

東日本大震災で被災した宮城県の子どもたちと絵本作家と一緒に描いた絵本です。人と人とのつながりの大切さやあたたかさ、未来への希望や決意が感じられます。「あの日」をこえた子どもたちのたくましさ、前向きな姿が伝わる一冊です。

2 北限の稲作にいどむ
“百万石を夢見た男” 中山久蔵物語



- ① 川嶋康男/著
- ② 農山漁村文化協会
- ③ 1300円
- ④ 28ナ012

北海道で開拓農民となり、「赤毛種」稲作の普及に力を尽くした中山久蔵の伝記物語です。厳しい寒さや害虫の発生など様々な困難に遭遇しながらも、試行錯誤を繰り返しながら一歩ずつ前進していく姿に胸をうたれます。

3 東京消防庁芝消防署24時
すべては命を守るために



- ① 岩貞るみこ/著
- ② 講談社
- ③ 1200円
- ④ 31イ013

「今回はうまくいかなかったけれど、次回、がんばろう。」そんなことが許されるはずもない命がけの消防署の仕事。7か月の密着取材により、私たちが知ることができない隊員たちの気持ち、日々の訓練の様子などがリアルに描かれている臨場感あふれる一冊です。

4 なぜ世界には戦争があるんだろう。
どうして人はあらしうの？



- ① ミリアム・ルヴォー・ダロンヌ/文
ジョシエン・ギャルネール/絵
伏見樂訳
岩崎書店
- ③ 1300円
- ④ 31タ011

戦争について考えさせる一冊です。なぜ戦争はなくなるの？と自問しながら、読み進めることができます。ルソーやホッブズ、カントなど歴代の哲学者の名言も入れながら哲学の世界へと誘ってくれるような一冊です。

5 いのちのギフト
犬たちと私から送る勇気のエール



- ① 日野原重明/著
- ② 小学館
- ③ 1500円
- ④ 64ヒ013

「世界に知れわたった犬の話」「保護犬やセラピー犬の話」などの実話や、創作童話など、人間と動物との関わりについて描いた10のお話がつまっています。命や動物と人間との絆について、改めて考えるきっかけとなるような一冊です。

6 たいせつなことは
船が教えてくれる



- ① 藤沢優月/著
- ② 金の星社
- ③ 1400円
- ④ 68フ012

国際航路の船に乗船した筆者が、体験したり、感じたりしたことをもとに書かれています。カラー写真を多く用いて、乗組員の仕事の様子がわかりやすく説明されています。働くとはどういうことなのか、人生で大切なものは何なのかを教えてくれるような一冊です。

7 ゴジラ誕生物語



- ① 山口理/著
- ② 文研出版
- ③ 1500円
- ④ 77ヤ013

映画『ゴジラ』の第一作の制作過程を知ることができる内容です。映画に関わった大勢の人たちが一丸となって映画を作り上げたことや、当時の多数の現場写真や映画の場面などを知ることができ、たくさんの感動があります。映画第一作「ゴジラ」を見たいという気持ちにさせてくれるような一冊です。

8 山の子みや子



- ① 石井和代/著
柳田善樹/絵
- ② てらいんく
- ③ 1800円
- ④ 91イ012

岩手県田野畑村で、山地酪農を営む家族の物語です。主人公みや子の成長を通して、牧場の暮らしの中でのドラマや、家族のそれぞれの人間性について生き生きと描かれています。家族の絆、幸福とは何か、生きるとはどういうことかというテーマについて深く考えさせてくれる一冊です。

9 ストグレ!



- ① 小川智子/著
- ② 講談社
- ③ 1400円
- ④ 91オ013

小学校5年生の光希さんは、空手に打ち込む女の子。でも、引越先で入門した道場は、全くやる気のない先生がいる道場でした。道場生も、それぞれに心に悩みのある小学生です。そんな先生や道場生との交流の中で成長していく光希さんの姿に、やる気や元気をもらえる一冊です。

10 きみの町で



- ① 重松清/著
ミロコマチコ/絵
- ② 朝日出版社
- ③ 1300円
- ④ 91シ013

「よいこととわるいことって、なに?」「自分って、なに?」「自由って、なに?」などの哲学的なテーマについて、子どもたちが考えるきっかけとなるような物語がたくさん詰まっています。誰もが経験したり感じたりしたことのある出来事が織り込まれ、読みやすい作品です。

11 いのちのヴァイオリン
森からの贈り物



- ① 中澤宗幸/著
- ② ポプラ社
- ③ 1200円
- ④ 91ホ007 13

津波被害を受けた陸前高田の流木を使って「震災ヴァイオリン」を作った著者が、これまでのヴァイオリンづくりから学んだことをまとめた作品です。ヴァイオリンを「森の命からの贈り物」と考える著者が、自然と人間の関係をそっと問いかけているような一冊です。

12 チャーシューの月



- ① 村中李衣/作
佐藤真紀子/絵
- ② 小峰書店
- ③ 1500円
- ④ 91ム012

児童養護施設「あけぼの園」で暮らしている子どもたちの間に起こるいじめや問題行動、教師たちも気付かない微妙な問題が描かれています。子どもたちの心の葛藤や、子どもたちの心を理解しようとする大人の姿が描かれており、感動する作品です。

13 ぼくは満員電車で原爆を浴びた
11歳の少年が生きぬいたヒロシマ



- ① 米沢鐵志/語り
由井りょう子/文
- ② 小学館
- ③ 950円
- ④ 91ユ013

当時11歳の少年だった米沢鐵志さんの被爆体験が綴られています。目にした光景が描かれているので、想像を絶する地獄絵のような状況が目に見え、読むのも苦しくなるかもしれません。しかし、原爆や核について考えるきっかけとなることでしょう。

14 あたしがおうちに帰る旅



- ① ニコラ・デイビス/著
代田亜香子/訳
- ② 小学館
- ③ 1400円
- ④ 93テ013

ペットショップで住み込みで働かされ「イヌ」と呼ばれている女の子が、友だちのハナグマの「エズミ」と新たに加わったオウムの「カルロス」とともに「おうち」へ帰る旅をする冒険物語です。最後に女の子が見つけたものに、心がぐっとひきつけられます。

15 ミサゴのくる谷



- ① ジル・ルイス/作
さくまゆみこ/訳
- ② 評論社
- ③ 1600円
- ④ 93ル013

自分の家の農場に希少動物の鳥ミサゴがいることを少女アイオナから知らされた少年カラム。ミサゴの「アイリス」を通して、カラムは貴重な出会いや別れを経験し大きく成長していきます。現代社会ならではの方法で、人がつながり合い助け合う場面も見物です。